

# Determinants of coronary artery calcification in maintenance hemodialysis patients

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2015-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西澤, 欣子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001929">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001929</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2353 号

## Determinants of coronary artery calcification in maintenance hemodialysis patients

(維持血液透析患者における冠動脈石灰化の規定因子)

西澤 欣子 (にしざわ よしこ)

博士 (医学)

### 論文内容の要旨

冠動脈石灰化は慢性腎不全患者、特に透析患者ではよくみられ、心血管系合併症からの死亡増加に大きな影響を与えている。いくつかの報告では、慢性腎不全患者の過剰な血管石灰化には従来の危険因子 (すなわち年齢、喫煙、糖尿病、高血圧、脂質異常症) のほか、尿毒症に関連した新たな危険因子 (例えば、高リン血症、高カルシウム血症、高カルシウム・リン積、副甲状腺機能亢進症、酸化ストレス、全身的な炎症、蛋白・エネルギー消耗) や薬剤 (例えば、炭酸カルシウム、活性型ビタミン D3) が相互に関与しているとされている。しかし、これらの従来の危険因子、新たな危険因子、薬剤、特に活性型ビタミン D の透析患者の血管石灰化への影響については議論のあるところである。ビタミン D3 の血管石灰化防御作用も報告されている。本研究では維持血液透析患者における冠動脈石灰化スコア (CACS) を評価し、有意な関連因子を検討した。207 名の維持血液透析患者を対象とし、MDCT による Agatston スコアを用いた CACS、性別、年齢、透析歴、糖尿病、喫煙歴、1 日 100ml 以上の尿量の有無、nPCR、GNRI、活性型ビタミン D3、シナカルセト、リン吸着薬、降圧薬内服の有無、血清クレアチニン、血清アルブミン、補正血清カルシウム、血清リンを評価した。冠動脈石灰化は 192 名の患者 (92.8%) で観察された。重回帰分析により、維持血液透析患者の CACS に年齢 ( $p < 0.001$ )、透析歴 ( $p < 0.001$ )、糖尿病 ( $p < 0.01$ ) が有意な危険因子であり、活性型ビタミン D3 投与 ( $p < 0.001$ ) のみが有意な防御因子であることが示された。活性型ビタミン D3 投与患者では、非投与患者に比べ CACS は有意に低かった ( $1349.6 \pm 1635.0$  対  $2475.6 \pm 2646.6$  HU,  $p < 0.05$ )。結論として維持透析患者における冠動脈石灰化に対し高年齢、長い透析歴、糖尿病は危険因子であり、活性型ビタミン D3 投与は防御因子であると考えられた。